

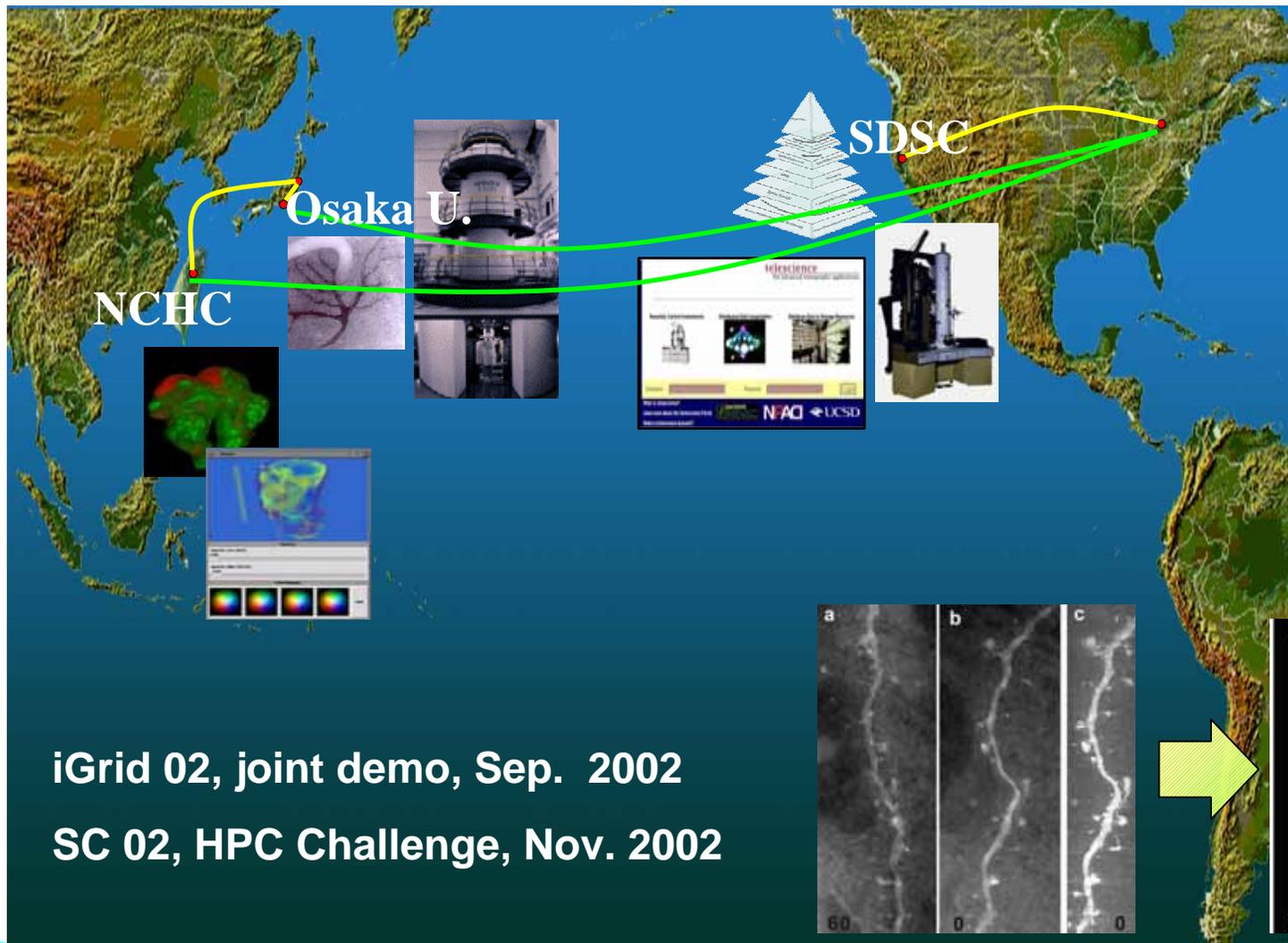
拠点連携型資源共有技術 に関する研究開発



JGNII 大阪RC研究内容
ご説明資料



Tele-science on Tomography (大阪大学、NCHC、SDSCによる)

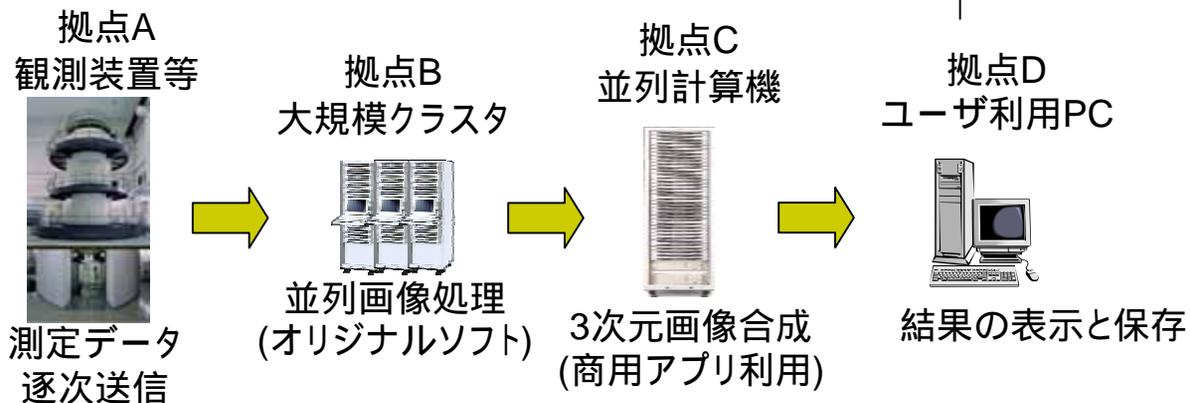


**Pacific
Rim
Application
Grid
Middleware
Assembly**

iGrid 02, joint demo, Sep. 2002
SC 02, HPC Challenge, Nov. 2002

背景

- 複数拠点を接続した新たな利用形態の登場
 - VO技術
 - 各種プラットフォームのGrid対応



特徴のある、サービスを経由しながら目的の計算を実施することが可能

- データ発生源の多様化
 - ハード技術の進歩により、小型機器のIP化が可能 (屋外センサ、自動車)
 - アドホックネットワーク技術、モバイル技術により、移動する端末の取り扱いが可能

小型かつ移動するセンサー搭載機器をGridの要素にできる可能性

研究のターゲット

- 研究の目的
 - 一般ユーザが手軽に自分の機材を利用した、大量データの処理を可能にする技術を確立する
- 現在の問題点
 - Gridへの資源の追加、削除等は管理者による手動の作業が必要
 - 個別の通信に対する品質保証は可能であるが、非常に高価
- 研究テーマ
 - 管理者等の人手を介さず、ユーザの機材をGridに追加、共有する技術を確立する
拠点連携のためのセキュアな資源共有技術の研究開発
 - Gridの拠点間のファイル転送に対して、低コストで品質保証を実現する
広域ネットワークにおける大規模データ処理連携技術の研究開発

JGN 大阪RC研究実施体制

